

国際広報メディア・観光学専攻

国際広報メディア研究コース

平成 31 年度
後期

日本語論述

10 : 00～12 : 00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙はこの紙を含めて 2 枚ある。
3. 解答用紙 (25 字×40 行=1000 字) は 2 枚ある。
4. 解答用紙は 2 枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号はすべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号はすべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用しても差し支えない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～3 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語（横書き）で記述しなさい。なお、適当な箇所で行って段落に分けること。また、字数は改行のための空気を含めて計算する。

【問題 1】

地方自治体の広報媒体が急速にデジタル化する中で、紙媒体である「広報誌」を発行し続ける必要性の有無について論じなさい。

【問題 2】

日本は、姉妹都市提携による国際交流の推進、外国青年招致事業（JET プログラム）による外国語教育の強化、国際イベントの誘致、企業や大学などの国際競争力の増強など、国際化に積極的であるにも関わらず、外国人の流入には消極的であるという批判がある。日本のそうした消極的な態度に対する自分の考えを、具体的な事例をあげながら述べなさい。

【問題 3】

鉄道やバスなど、過疎地の公共交通網をどのように維持すべきかが、日本各地で課題となっている。公共伝達、ジャーナリズム、広報、メディア文化、言語のいずれかの専門性を活かしてこの課題の解決に貢献するとしたら、どのような提案をするか。具体例を交えて、根拠をあげながら論じなさい。